

開 会 の 挨 拶

札幌学院大学社会情報学部長 千葉正喜

今年の「社会と情報に関するシンポジウム」は『21世紀の北海道メディア・ローカル放送・通信の構造変動と地域オーディエンス像』ということで開催することになりました。私の方から一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

社会情報学は社会に生起する様々な情報現象を客観的な現象として認識する学である。そういうふうな定義されるかと思えます。科学の一分野ということであろうと思えます。私もこの定義に同意していますし、この学部の多くの方々もそういう認識で日々の教育研究に励んでいると思えます。

この社会情報学部教授会では2000年でしたか、大学院設置について議論をしました。

まだその実現を具体的にすることには踏み出してはいません。しかし、「情報システム領域」、「社会分析領域」、「社会情報理論領域」を学部としての教育研究の柱にしていこうということにはなっています。今日のシンポジウムもこの柱に沿って位置づけて計画されたものと考えています。放送や通信とか、そのネットワーク、そういうものは、誰もが認める社会の大きな情報現象には違いないと思います。

それで社会情報学として、放送メディアなどの情報メディアをどのように認識して、そこにどのような研究課題があり、また、この学部で学生に教育していく内容は何であるかを明らかにすることに、このシンポジウムが貢献できればと期待をしております。

今回のシンポジウムでは、このような分野をカバーするそれぞれの最前線で活躍をされているの方々をお招きしています。北海道大学工学部工学研究科の山本強さん、それから北海道テレビ放送の井上実于さん、それから東京の上智大学から音好宏さんです。そういうことで、遠いところ、またお忙しいところをお出でいただいています。これら三人の先生方からご講演をいただくとともに活発な討論を展開したいと考えております。

この時期は夏休みになっているところも多いかと思いますが、研究活動・調査活動などでお忙しいところ、また北海道では一番暑いときのこのシンポジウムにお出でいただいたこと、大変感謝をしております。今日・明日の2日間をよろしく願いたいと思います。どうもありがとうございました。



千葉正喜 学部長